



主張するセルフ・アドボケートたち

No. 13

ぼくのすきなこと

あかみね さちと
赤嶺 幸人 (25歳・沖縄県)

「アドボケート」(advocate)とは、障害関連では、権利擁護のための活動を支持する人、擁護する人、代弁する人の意味です。この企画では、「セルフ・アドボケート」=ダウン症のある人たちに、自ら、自分の言葉で、現在の生活についてや思いなどを伝えていただきます。全国からの発信をお待ちしています。

ぼくは、^{さんしん}三線と太鼓と おどりをならっています。楽しい時は、一人で三線をひいている時がうれしい。いちばんはじめにならったのは、おどりです。ぼくが3才の時に ちいきのぼんおどりでおどっているところ、古典りゅうぶの先生からこえがかかってでしになった。5才の時から ぶたいにたち、いまの25才までおけいこをつづけています。

太鼓は、5ねんせいの時からはじめました。18才のころからしょうにチャレンジしてついに22才の時にさいこうしょうをとりました。今ではイベントでかつやくしています。

三線をはじめたきっかけは、15才の時にみんなのはっぴょうかいをみて三線をやりたいとおもったです。15才からはじめた三線で めいっこや おいっこに きかせています。いちばんとくいなのは、「肝がなさ節」と「ていんさぐぬ花」です。三線のれんしゅうをたくさんして しんじんしょうをとりたいです。

そのほかに ちいきのかつどうとして17才の時から「FMとよみ」で、みんなをしょうかいする「ゆがふ^{さちと}幸人の民謡で一びる」(注：毎週木曜12時から2時間の生放送を一人で担当。民謡の曲を25曲程度紹介)というばんぐみでラジオをしています。かぞくのきょうりよくのもと 2じかんばんぐみでがんばっています。これからもよろしくおねがいします。

兄は、おんきょうのしごとをしています。ぼくがやすみの時は、ときどき兄のしごとをてつだっています。ぼくのやくわりは、マイクスタンドをだしたり、かたづけをします。いちばんすきなのは、ミキサーの前で ぶたいをみているのがすきです。

ぼくのたいせつなしごとは「しゅうろうしえんアロハ」で やさいやマンゴーをつくっています。しごとのあとは、おけいこや ちいきかつどうにさんかしています。おしごとがあるから あさもおきるようになりました。おきゅうりょうをもらって お母さんをたすけたいとおもっています。

しごとやおけいこでは、みんながこえをかけてくれるからうれしいです。かぞくやみんなにたすけてもらって かんしゃしています。だいすきな古典音楽や みんなをまいにちききながらがんばっています。これからもつづけていきます。



<プロフィール>

1990年、沖縄県生まれ。二男二女の末っ子。地域の中で生活してほし

いと両親の思いで、保育園から中学校まで地域の公立学校へ。中学卒業後、学習塾やお稽古中心に過ごす。現在、お稽古、仕事、地域・舞台活動と、充実した日々を送っている。